



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

神奈川県 愛川町立愛川中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：三宅 諒 先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年11月14日(火)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にフェンシング競技で出場したと自己紹介。フェンシング競技は剣で相手を突きポイントを取り合う競技で、第1回の近代オリンピック大会から実施されている歴史の古い競技だと説明。準備運動は、各自ハチマキを腰から下げ、全員でハチマキを取り合う、しっぽ取り鬼を実施。取ったハチマキは自陣に置いておく。他の班の陣地に置いてあるハチマキを1回に1本だけ取ることができ、その際取られないように邪魔をしてはいけない。90秒間に取った数を班対抗で競う。

○主運動等



・フェンシング競技の基本の動きと名称について、基本の構え(オングード)、マルシェ(一步前が出る)、ロンペ(一步後ろに下がる)、ファンデブ(前が出る攻撃動作)を説明し皆で実践。主運動は、2人組で1本のハチマキを持ちフェンシング競技をイメージした「ロープフェンシング」を実施。列を2つに分け4通りの動きを説明。合図を聞きその動きを間違えずに素早く行った方が勝ち。その後、皆の前で1組ずつ対戦し負けた人が多かった列は、マルシェとロンペの姿勢で体育館を横に2往復する。



・運動の時間を振り返り、フェンシング競技の動きを体験し、ゲーム感覚で実践してもらったことで、フェンシング競技に興味をもってもらえたら嬉しい。体を動かすことで緊張もほぐれ、友達同士よく声を出し合っていて取り組んでいた。座学の時間は、オリンピックバリューについて詳しく説明し、皆にとってのオリンピックバリューを考える時間にしたい。また、グループワークでは積極的に発言し意見をまとめてほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：三宅 諒 先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年11月14日（火）

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スライドを見ながら自己紹介と競技説明。ロンドン2012大会では団体種目で銀メダルを獲得。フェンシング競技を始めたのは5歳の時だったが、オリンピックを本気で目指そうと思ったのは出場する1年半前だった。目標に掲げてからはそれははっきり周囲の人に伝えた。夢を人に話すことは恥ずかしいことではなくとても大切なことだ。話すことで、サポートしてくれる人が現れ協力してくれる人が増える。皆はまだ夢がなくても、夢がある人の話を聞いてあげることも大切だ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分の夢を友達に伝え、その夢のゴールはどこか、叶えるための方法を具体的に考えよう。

発表：「漫画家になるために美術系の高校や大学に進学し出版社に就職する」「海外に移住するために英検に合格し海外留学する」「サッカー選手になるために強豪チームに所属し日本代表に選出される」「パン屋さんになるためにアルバイト後、独立して自分のお店を持つ」「バイクの整備士になるために専門学校で資格を取り自分のバイクを作る」等



・座学の時間を振り返り、皆はこれからまず夢を持つこと、そしてその夢を誰かに伝えることが大切だ。次にゴールはどこかを考え、その道に進むために具体的にどうすればよいかを考えてほしい。自分に足りない能力を伸ばすために一生懸命努力することで夢に少しずつ近づいていく。今日学んだオリンピックバリューを活かして、夢を持って日常生活を送ってほしい。これからも皆を応援していると話し、授業終了。

■オリンピック：三宅 諒 先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年11月14日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



•2012年のロンドン大会にフェンシング競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、皆の生活の中にもオリンピックバリューがあることを感じてほしい。準備運動は、各自ハチマキを腰から下げ、全員でハチマキを取り合う、しっぽ取り鬼を実施。取ったハチマキは自陣に置いておく。他の班の陣地に置いてあるハチマキを1回に1本だけ取ることができ、その際取られないように邪魔をしてはいけない。90秒間に取った数を班対抗で競う。

○主運動等



•フェンシング競技の基本の動きと名称について、基本の構え(オンガード)、マルシェ(一步前が出る)、ロンペ(一步後ろに下がる)、ファンデブ(前が出る攻撃動作)を説明し皆で実践。主運動は、2人組で1本のハチマキを持ちフェンシング競技をイメージした「ロープフェンシング」を実施。列を2つに分け4通りの動きを説明。合図を聞きその動きを間違えずに素早く行った方が勝ち。その後、皆の前で1組ずつ対戦し負けた人が多かった列は、マルシェとロンペの姿勢で体育館を横に2往復する。



•運動の時間を振り返り、フェンシング競技をイメージした体験を通して、皆がフェンシング競技を身近に感じ興味を持ってもらえたら嬉しい。また用語についてもぜひ覚えておいてほしい。座学の時間は、オリンピックバリューのエクセレンス、フレンドシップ、リスペクトについて詳しく説明し、皆にとつてのオリンピックバリューを考える時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：三宅 諒 先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年11月14日（火）

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スライドを見ながらフェンシング競技についてルールを説明。フェンシング競技はフルール、エペ、サーブルの3種目があり、斬る動作と突く動作を行う。剣の先端がスイッチとなり、電気を使って判定するので試合会場は暗い中で試合を行う。また、試合後に選手が感謝の言葉を伝えるのは、周りの人のサポートのお陰で競技ができていたことを選手は理解しているからだ。自分の夢が言える人はいるかと尋ねると数名が手を挙げる。夢は人に伝えることで応援してくれる人が増えると話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分の夢を友達に伝え、その夢のゴールはどこか、叶えるための方法を具体的に考えよう。

発表：「プロ棋士の名人と竜王になるために、ライセンスを取り大会にどんどん出て勝つ」「医療関係の仕事に就きたい、とにかく勉強する」「高跳びでオリンピックに出場したい、自分に何が足りないかを考えながら練習する」「一流料理人になるために調理学校に通い調理師免許を取得し、一つ星レストランで働く」等



・座学の時間を振り返り、夢を達成するためには、今の自分に足りない部分を冷静に分析することが重要だ。自分の夢を周囲に話すことはエクセレンス、友達の夢を聞き協力することはフレンドシップ、自分に関わる人すべてに感謝することはリスペクトだ。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の身近にある。皆も自分の夢を伝え、仲間の夢を理解し協力できる人になってほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

